



皆さまから多額のご寄付をいただき、予算に余裕ができましたので、今号より通信をカラー印刷化いたしました。年ごと、季節ごとに異なる顔を見せてくれる自然や景観を、従来に増して生き活きとお伝えします。どうぞお楽しみください。これからもお友達へのご紹介など、より一層の応援をよろしくお願いいたします。

第8回 こあじろの森くらぶ総会

開催日：2023年8月27日（日）13：30～14：00

会場：三浦市潮風スポーツ公園管理棟A・B会議室

開会のご挨拶

会員の皆様 お変わりなくお健やかに過ごしのこととお喜び申し上げます。

幸いにも、数年来の新型コロナウイルス感染拡大も、少し落ち着きを見せてきました。私たちのフィールドである、こあじろの森も全面的な閉鎖という不幸な期間もあり、こあじろの森くらぶの活動も、一時期制限されることもありました。

最近の例では、本年6月上旬の大規模な集中豪雨の影響で、小網代湾側からの山越えの地点、宮前の峠で土砂崩れが発生して、森へのコースが閉鎖されました。幸いにも、神奈川県による補修が終わり、無事に探勝路が復活しました。

小網代の森は生きているのだなと感じております。

他の取り組みとしては、「ふしぎな変形菌」です。昨年8月、遠く茨城県自然博物館へ有志4名が出掛けました。また、恒例になっている横須賀市光の丘水辺公園でのニリンソウ鑑賞会を実施しました。水辺公園では、園内に管理事務所があり管理者が常駐しております。

本年4月、三浦半島の遺跡を調査して膨大な資料や記録を残された、赤星直忠博士の「赤星直忠博士文化財資料館」の見学会では、多数の参加者がありました。

会員の皆様、スタッフの皆様のご協力ご支援によりまして、今年も無事に総会を迎えることができました。ご多用中の所ご参加頂きまして本当にありがとうございます。

どうぞ、こあじろの森くらぶの行事へ参加してくらぶ活動をご一緒に楽しまれることをお誘いいたします。

祖父川精治（代読 松原あかね）



総会概要

令和5年8月27日（日）三浦市潮風スポーツ公園管理棟 A.B 会議室にて、午後1時30分よりこあじろの森くらぶ第8回の総会が開催されました。出席者13名に、委任状23通を加えて、総会の資格確認がされ、議事に入りました。

議長に加藤利彦氏を選出し、議案の審議に入りました。第4号議案に繰越金予算額見直しの動議があり訂正案が承認されました。これを含め第1号から第5号まで全ての議案が全員一致で承認されました。また、今年度から光の丘水辺公園友の会の活動に賛助会員として参加することになり、同会の活動について別府史朗さんからご説明をいただきました。

お忙しい中、委任状の提出にご協力くださった皆さま、ご参加くださった皆さまに深く御礼申し上げます。

橋みちよ

第8回こあじろの森くらぶ総会

第1号議案 2022年度活動報告

- 2022.07.08（金） スタッフ研修 変形菌探し（光の丘水辺公園）
- 2022.07.09（土） スタッフ会議（リモート）
- 2022.07.16（土） スタッフ会議（リモート）
- 2022.07.31（日） 通信 No.32印刷 10：00～（横須賀市立 市民活動サポートセンター）
- 2022.08.07（日） 小網代の歴史をもっと知ろう
- 2022.08.20（金） 小網代の歴史をもっと知ろう編集会議（リモート）
- 2022.08.27（土） スタッフ研修「変形菌」 茨城県自然博物館
- 2022.08.28（日） こあじろの森くらぶ第7回総会（リモート）
- 2022.09.10（土） スタッフ会議（リモート）
- 2022.09.25（日） スタッフ会議 10：00～（横須賀市立 市民活動サポートセンター）
- 2022.09.25（日） 通信第33号印刷発行（横須賀市立市民活動サポートセンター）
- 2022.10.15（土） スタッフ研修 変形菌探し（光の丘水辺公園）
- 2022.10.16（日） カレンダー画像選考会 13:00～15:00（リモート）
選考会終了後スタッフ会議（リモート）
- 2022.10.23（日） 第32回交流会「初秋 森の風は若返りの妙薬……かな?!」
- 2022.10.23（日） スタッフ会議（リモート）
- 2022.10.30（日） スタッフ研修 三浦の海岸歩き（剣崎灯台から江名湾）
- 2022.11.02（水） 第33回交流会・縁の会のお知らせ ハガキ作成・投函
- 2022.11.12（土） 第33回交流会下見
- 2022.11.12（土） スタッフ会議（リモート）
- 2022.11.27（日） 通信第34号印刷（於 横須賀市立市民活動サポートセンター）
- 2022.12.03（土） 第33回交流会「相模湾から東京湾へ 三浦半島横断」
縁の会 三浦海岸伊豆島
- 2022.12.17（土） 小網代の歴史をもっと知ろう編集会議（リモート）
- 2023.01.02（月） 第34回交流会お知らせハガキ投函
- 2023.01.16（月） 第34回交流会下見
- 2023.01.26（木） スタッフ会議（リモート）
- 2023.01.29（日） スタッフ会議（リモート）

- 2023.02.05 (日) 第34回交流会「鳥いっぱい谷と海 2023!」
 2023.02.08 (水) 遠足打ち合わせ (赤星直忠博士文化財資料館)
 2023.02.11 (土) スタッフ会議 (リモート)
 2023.04.10 (月) スタッフ研修 変形菌探し (光の丘水辺公園)
 2023.04.12 (水) 赤星直忠博士文化財資料館 打ち合わせ
 2023.04.16 (日) 遠足 赤星直忠博士文化財資料館
 2023.04.22 (土) 第35回交流会下見
 2023.04.23 (日) スタッフ会議 (リモート)
 2023.04.29 (土・祝) 第35回交流会「春は草花、木の花も」
 スタッフ会議 (於 小パール隊事務所)
 2023.05.01 (月) 第36回交流会 (ホテル) お知らせハガキ投函
 2023.05.15 (月) スタッフ会議 (リモート)
 2023.05.17 (水) 三浦の海岸歩き下見 (地元の方にご案内いただく)
 2023.05.20 (土) スタッフ研修 変形菌探し (光の丘水辺公園)
 2023.05.21 (日) スタッフ研修 三浦の海岸歩き 毘沙門から宮川まで
 2023.05.28 (日) スタッフ会議 (於：横須賀市立市民活動サポートセンター)
 通信第36号印刷
 2023.06.04 (日) 第36回交流会「ホテルを見よう！ 2023」
 2023.06.05 (月) スタッフ研修 変形菌探し (光の丘水辺公園)
 2023.06.09 (金) 三浦の歴史 追加取材 (江奈湾 震洋艇格納庫)
 2023.06.13 (火) スタッフ会議 (リモート)
 2023.06.18 (日) スタッフ研修 三浦の海岸歩き (城ヶ島その1)
 2023.06.24 (土) 赤星直忠博士文化財資料館講演記録 編集会議1 (リモート)

第2号議案 2022年度決算

収入の部				支出の部			
科目	2022年度予算額	2022年度決算額	差異	科目	2022年度予算額	2022年度決算額	差異
前期繰越金	853,041	853,041	0	通信費	40,000	54,120	▲14,120
会費収入	75,000	64,000	11,000	交通費	10,000	11,380	▲1,380
寄付金収入	200,000	1,071,140	▲871,140	事務消費費	20,000	21,937	▲1,937
				会議費	70,000	58,286	11,714
				広報費	60,000	79,265	▲19,265
				諸手当	140,000	135,160	4,840
				次期繰越金	788,041	1,628,033	▲839,992
計	1,128,041	1,988,181	▲860,140	計	1,128,041	1,988,181	▲860,140

繰越金内訳

ゆうちょ銀行当座預金	647,187 円
現金	980,846 円
合計	1,628,033 円

上記の通り相違ありません

2023年7月18日

会計 宮本美織



上記の通り相違ありません

2023年7月18日

会計監査 竹内晶子



第3号議案 2023年度活動計画

会則「小網代の森を楽しむことを通じて、会員の交流をはかる」にそって活動する。

- 交流会 5から6回、2023年度は7回になる見込みです
 - 通信発行 5から6回
 - 会員に提案して、小網代の森以外での活動を行う（遠足、海岸歩き、変形菌探し等） 随時
 - スタッフ研修 随時
 - 交流会記録集「小網代の歴史を訪ねてみようⅢ」をまとめる
- これからの予定（案）

- 2023年9月9日（土） 第37回交流会 こあじろ考古学講座
「小網代地域の遺跡とその周辺ー三浦半島の考古学研究の歴史からー」
- 2023年10月 第38回交流会 カレンダー写真選びの会（リモート）
- 2023年11月 第39回交流会 こあじろ遺跡探訪会
- 2023年12月 第40回交流会 （終了後希望者は縁の会）
- 2024年2月 第41回交流会 「鳥いっばいの谷と海2024！」
- 2024年3月～4月 遠足 ニリンソウ（光の丘水辺公園）
- 2024年4月29日 第42回交流会（植物）
- 2024年5～6月 第43回交流会（ホテル）

※会員の皆様からのアンケート・ご意見を参考に今年度も企画していきます。

第4号議案 2023年度予算

収入の部				支出の部			
科目	2022年度決算額	2023年度予算額	差異	科目	2022年度決算額	2023年度予算額	差異
前期繰越金	853,041	1,628,033	▲ 774,992	通信費	54,120	160,000	▲ 105,880
会費収入	64,000	75,000	▲ 11,000	交通費	11,380	120,000	▲ 108,620
寄付金収入	1,071,140	200,000	871,140	事務消耗費	21,937	120,000	▲ 98,063
				会議費	58,286	160,000	▲ 101,714
				広報費	79,265	310,000	▲ 230,735
				諸手当	135,160	250,000	▲ 114,840
				次期繰越金	1,628,033	783,033	845,000
計	1,988,181	1,903,033	85,148	計	1,988,181	1,903,033	85,148

第5号議案 2023年度運営体制 ※ 代表をおかず、スタッフ会議の多数決により運営する。

スタッフ：菅野哲生 木皿直規 倉内ちひろ 鈴木カヲル 須藤伸三 祖父川精治 高橋伸和 中井由実 仲澤イネ子
浪本晴美 橋美千代 別府史朗 松原あかね 三本保子 宮本美織 山本述子（五十音順）

会計監査：竹内晶子

閉会のご挨拶

皆さん今日はお集まり頂いて、こあじろの森くらぶ 8 回目の総会ですね。やっとコロナがおさまってこのように集まっていただけのも、有難いことです。今年の活動方針も、いろいろ本当に皆さんの活動に私も出席したいんですけど、仕事が忙しくて、活動を見させて頂いて楽しんでいますが、ほとんどの会員の方が、皆さん歳を重ねられて、同じような感じで、会を見守る立場になっていると思うんです。今の水辺公園さんのお話を伺うと、本当にあのくらい活動できるといいなという気が、実はしてい

るんですよ。歳を取ったら体も心も動かさないと、どんどん萎えちゃうんですね。私も見て、仕事柄感じてるんですけど、職員でもそうです。歳を取っても動ける方は動けるんですよ。ちゃらんぼらんで動かないでいる人は、あそこが痛い、ここが痛いがどんどん始まって動かなくなる。痛くてもお相撲さんみたいにサポータをバンバンにして、海岸歩きしましょう。本当に羨ましいです。

やっぱり今はバーチャルの世界になっちゃって、現場に行かないで、知識だけため込んじゃうパターンが多いですね。でも、知識は入れても役に立ちません。知識は知恵になりません。やはり現場で実際に体にしみ込ませたものが、生きる糧というか、知恵になると思うんですよ。ですから、これからは会員である限り、会に引きずられ、会は会員に引きずられ、持ちつ持たれつで、末永く頑張っているってほしいし、頑張っているって思いますので、よろしくお願いします。

今日は本当にありがとうございました。

高橋伸和



●●● 会員の皆さまからメッセージをいただきました ●●●

興味のある企画があるのに参加できず残念に思っております。せめて通信を読んで、その時の気分を想像しております。ありがとうございます。(M.K)

多忙に感じる一年でした。今年度もそうなるでしょう。よろしくお願いいたします。(S.T)

いつもご連絡を有難うございます。詩も、ホテルも、ハンゲショウも、あゝこの季節と想い出しています。今回は、特に遺跡群、感激しています。手元においては眺めています。我が家の宝です。どんな人達だったのでしょ。どんな物を食べていたのでしょ。と、想像が広がります。重ねて有難うございました。(T.T)

いつも通信ありがとうございます。楽しそうなイベントのお知らせ……。日々の暮らしにおわれ、なかなか参加できませんが、4月29日(昭和の日)に、皆さんと時間が合わなかったですが、息子と歩けたこと、幸せでした。(K.K)

いつもお世話になります (Y.F)

いつも、有難うございます。(S.B)

活動に参加出来ない(年齢)名前だけの会員ですが、毎回通信を読みながら、勉強会や森歩きの光景を想像して楽しんでます。有難うございます。(K.E)

又参加したいと思います。(M.M)

楽しく通信を見ております。 [S]

スタッフの息の長い活躍は素晴らしいし、頭が下がります。
私、まったくとっていい程参加出来ず心苦しく思います。通信は毎度読ませて頂いています。
(N.Y)

皆様のご活躍に
心から拍手。
(K.I)

来年はアカテガニの放仔観察会が開けるといいですね。会場の海岸清掃をすることになったら参加したいと思えます
(T.K)

日頃はいろいろな活動ご苦労さまでございます。昨年のホテルを見る会で、素晴らしいホテルの舞を見て感動致しました。今年は一部しか見ることが出来なかったようで、残念でしたね。どうかまた元に戻って見学出来ますようご進言下さい。
(A.E)

何もできなくて申しわけありません。しばらく森に行っていないので涼しくなったら、出かけようと思っています。
(K.O)

「こあじろの森くらぶ通信」楽しみにしています。「ホテルを見にいこう！2023」は、今年参加をと思っていましたが、何えず残念でした。写真も豊富で、植物や動物、菌 etc.参考になります。
(N.O)

いやはや今年の猛暑は、ナンボ何でも難儀します。どうぞ皆さまつつがなくお過ごしください。
(K.S)

いつもありがとうございます。
これからもよろしくお願ひします。
(S.B)

くらぶ通信にのっている、交流会以外の話題、海岸歩きや歴史の話を興味深く読んでいます。
(H.A)

いつもお世話様です。
顔を合わせての総会が開ける様になり、良かったですネ。
(A.S)

いつも通信を楽しく読んでいます。横穴や、多くの遺跡、すごい！
(M.O)

いつもお世話になります
(Y.F)

●●● 第二部 写真ショー「Marronnier・アルバム日記」 ●●●

こあじろの森を隅から隅まで、ショーアップ。うれし、なつかしの楽しいショーでした



総会の第二部は T.Ishizuka さんの写真ショー。写真がとにかく美しい、アングルも素敵、お話も楽しくて、大量の写真を少なく感じたほどでした。
主に交流会などで撮影された写真が次々と表示され、中に自分の姿を見つけた方も少なくなく、画面に吸い込まれそうでした。

何年も前から企画していた T.Ishizuka さんの写真ショーが、やっと実現できてよかった。
S.T

写真を見ながら、T.Ishizuka さんと M さんのお話を聞くことで、走馬灯のように思い出が巡りうれしかった。
Y.M

交流会に参加された時の写真の中で、ゲンノショウコの花を見て、そのあと実がなったところをみはからって、また小網代の森へ行き写真を撮ったという写真家魂に感心しました。奥さんがタクラマカン砂漠に飛び込むような写真が印象的だった。
M.M

ミサゴの飛んでいる写真を撮られていて、あぁすごいなと思っていたが誰の写真か分からなかった。今回のショーで石塚さんの写真と分かった。
S.B

宮本卓也先生にご案内いただいた変形菌の交流会の写真がなつかしかった。
K.S

小網代の写真がきれいだった。タクラマカン砂漠の写真にわくわくしました。
A.M

小網代を詩う

夏の区切り

中井 由実

今年は夏が早く来た
長く暑い夏
森くらぶの総会の今日

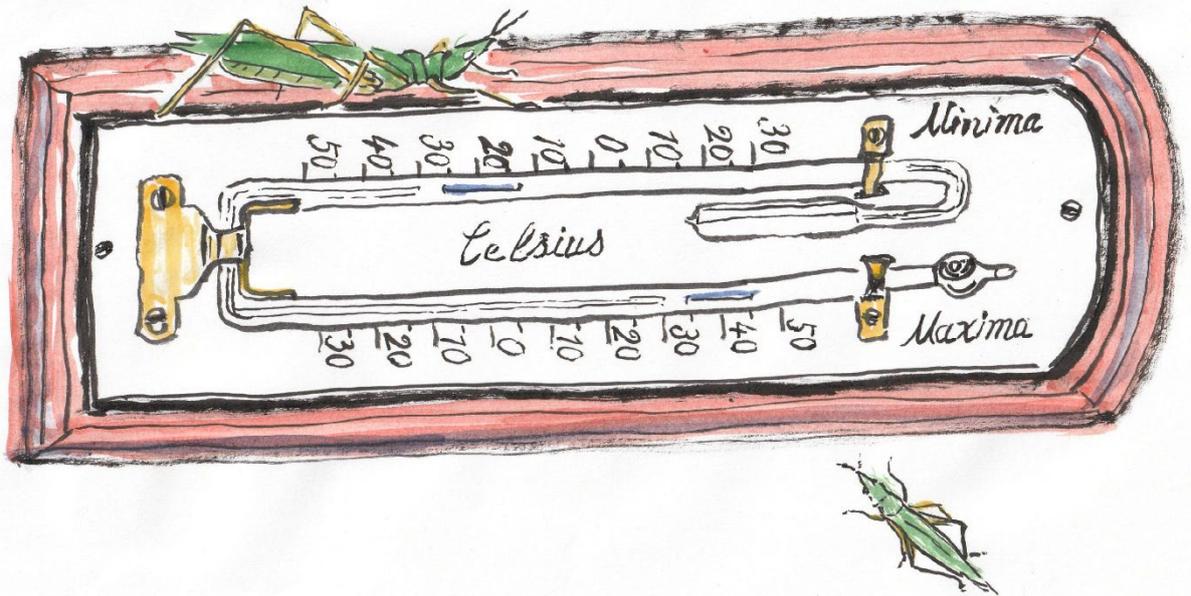
それは
谷をかけ巡る生き物たちの夏が
一段落する区切りの印でもあるはずなのに
この日差しときたら

潮風スポーツ公園に向かう
舗装された歩道
不意に大きなショウリヨウバッタが
目の前に飛び出してきた

じろりと私をにらみ
一転 そしらぬ顔で
ブロック塀に飛び移る

太陽は依然強い
でも、秋が

私の足元で始まったようだ



挿し絵：「夏のしるし」伸

第 37 回交流会「こあじろ考古学講座」

- 小網代地域の遺跡とその周辺 - 三浦半島の考古学研究の歴史から -

2023年9月9日（土） 三浦市潮風スポーツ公園 管理棟 2階 A・B 会議室をお借りして、須田英一先生にお話をしていただいた。詳細については後日、皆様にお届けの計画がありますので、極簡単に報告します。

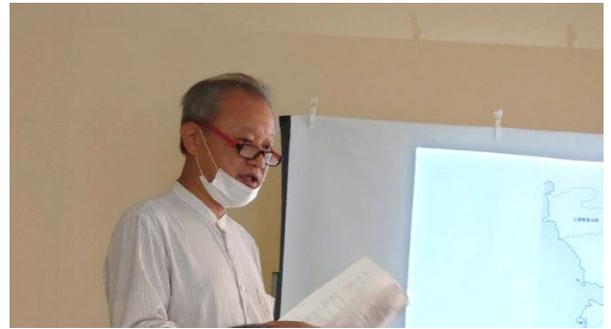
講義は司会者から須田先生との出会いから今日に至った簡単な紹介があった後、14時すぎに先生を交えて 21名の参加で始まりました。

小網代地域周辺の遺跡については『三浦半島考古学事典』に掲載の遺跡解説を参照して旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世とスライドを交えながら 30 近くの数の遺跡について特記すべきことについてのお話がありました。

筆者の特に注目したところは赤坂遺跡の説明でした。明治 30 年から昭和 4 年の御用邸道路の建設時に竪穴住居趾が発見され 1948、1949 年、1966 年の調査では弥生時代だけではなく旧石器の遺跡であることも判明。1975 年以降遺跡範囲確認調査の結果、規模は約 7 万㎡、更に長軸 15 m、短軸 12.2m の巨大住居趾の発見があり、2001 年までに 20 次（三浦半島考古学事典）に亘って調査が行われていたようだ。

出土品は土器、貝輪、青銅製品、石器、自然遺物も多数出土しているという。現在は関東地方においても有数の規模を持つ遺跡であることが判明、2011 年に国史跡に指定されたとのこと。

筆者は多分その発掘調査の説明会に参加した覚えがあり、知り合いが青銅でできた指輪を指して、私が見つけた。と教えてくれた事、多数のミニチュアの土器が発見され、祭祀に使われていたのではないかと説明されたのは記憶している。須田先生のスライドで巨大住居趾の大きさが改めて実感できた。ここで集まったり仕事をしたりしていたと思われる人々の顔が浮かんでくる。おしゃれな人はステータスの印もかねる貝輪などもつけていたのだろうか。想像が膨らむ。



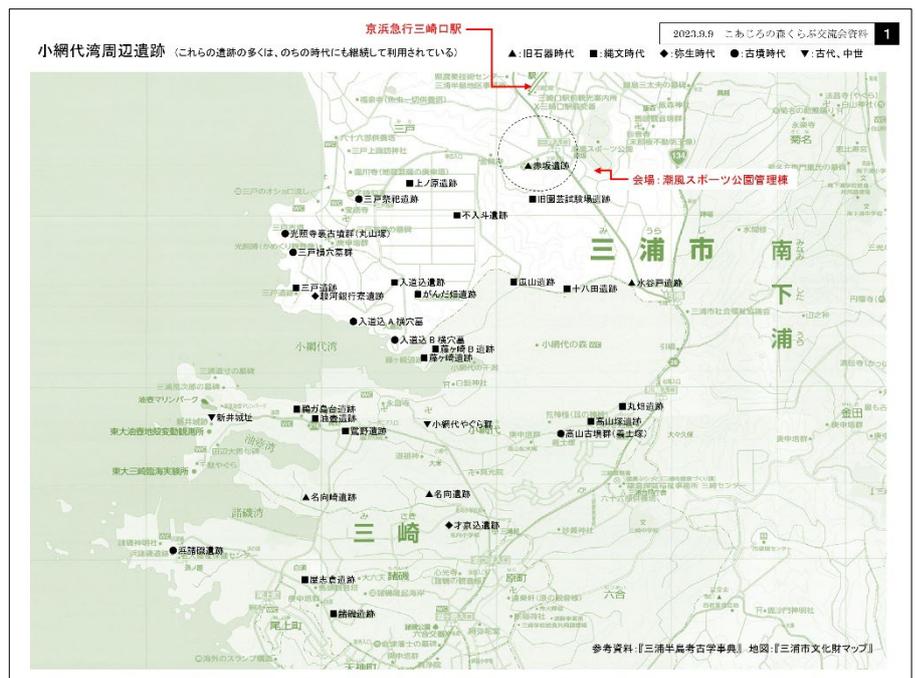


こあじろの森くらぶでは、もう記録保存なくなってしまっている三浦縦貫道の林出口付近の旧石器時代の四角い落とし穴が縦に並んでいる船久保遺跡の見学を交流会で行っている。人として同じ三浦半島の大地の上を歩いているのだと思うと豊かな気持ちになれる。赤坂遺跡ももっと見える形で現代の我々の前に現われて欲しいものだ。

須田先生のお話に興味津々で聞き入っているうちに4時終了の時刻が近づき質問を数点受けて頂いた。

鎌倉時代の地面は今よりも深い所にあるのはなぜか、栗の木の栽培はされていたのか、第2次世界大戦の相模湾防衛の震洋隊の洞窟は西海岸道路建設で潰されてしまうのだろうか。

会場を閉めなくてはいけない時刻まであと15分。慌てて机椅子等参加の皆さんにお手伝い頂いて何とか片付けることができました。ありがとうございました。参加の皆さんは須田先生の追っかけファンのような方も見えていて真剣な雰囲気です。



最後に集合写真を撮りました。声を揃えてみんなで「い・せ・き」を2回、笑い声が飛び交って5時終了でした。

記：宮本美織 写真：宮本 辻 浪本



●●● ご参加の皆さまからメッセージをいただきました ●●●

すごい、すばらしかった!! 先生ありがとうございます

Y.M

色々教えていただいてありがたかった! これからの課題も見つかった

M.M

三浦市にたくさんある遺跡のお話はすごく興味深かったです。昔の人々に思いをはせながら、楽しく学ばせていただきました。ありがとうございます

F.A

ありがとうございました。10数年ぶりにお話をきくことができ、感激です。「遺跡をまちづくりとの話」もって考えてみたいと思います

M.I

たいへんおもしろいお話でした。とくに縄文人の生活のお話は、生き生きとして目に見えるようでした

K.S

小網代の周辺にこんなに多くの遺跡があるのを初めて知りました。大変に参考になりました

アダム

面白かった、楽しかったです。ありがとうございました。

C.A

歴史関係は苦手なのですが、とても興味深く聞くことができました。ありがとうございました

どんぐり

身近な遺跡の話は楽しかったです。縄文時代のことが身近に感じられ、生活のようすが目に浮かぶようです。一日過ぎたら過去は歴史となるのですね。お久しぶりで、お会いできてよかったです。

M.T

とても興味深いお話でした。私のような不勉強な者でもわかりやすく聞くことができ、来てよかった!!と思いました

K.M

先史時代から現代へタイムトラベルをしているようでした。赤坂遺跡、建物はなくても一番大きな建物の印をつけてくれないかしら。もっともっとお話を聞きたかったです

A.K

三浦半島が日本において重要な場所であることが分かりました。“縄文の人々のリアルな暮らし”が、もっとお話を聞きたかったです。とても興味があります。ありがとうございました

Y.O

初めて参加しました。後半の先生との質疑応答がとても興味深く、もう少し時間がほしいくらいでした。病
気や寿命・結婚、もっとお話を聞きたかったです。

匿名希望

先史時代の壮大な歴史ロマンでした。あと、3日間くらいはお話を聞き続けていたかったと思います。先
生、ありがとうございます。

M.H

参加者の皆さんがとても熱心でおどろきました。博物館が苦しい時代、もっと多くの人々が利用できれば
と、いつも考えています

Y.O

11月の「こあじろ遺跡探訪会」が待ち遠しいです!楽しみにしています。

H.N

三浦の歴史に関心が高い方が集まって下さってよかった。先生のお人柄か、会場中、終始なごやかで、興味
津々の様子が伝わった。11月の遺跡巡りがとてもたのしみだ。

A.M

サロン小網代「丹沢のニホンシカ」

祖父川精治

神奈川県では「ニホンシカ」のことを、もっと知ってくださいという小冊子を平成25年3月に発刊している。シカの生息地帯は主に、丹沢山地で生息個体数は現在約2000頭から4000頭位と推定している。そして草食動物である。

ニホンシカの出産間隔は、ほぼ毎年。初産年齢は2歳から。平均寿命はメス4歳、オス3歳と意外に短い。

安芸の宮島や奈良公園では、シカが群れをつくり自然に遊んでいる代表的な観光の目玉となっている。奈良のシカには角がない。これは毎年秋になると、危険防止のために「シカの角切り」を行っているからである。

丹沢山地には、本州に生息する大形獣の全てが生息している。ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンシカ、イノシシが生息している。私はクマ以外全て出会っている。他には小形獣のアナグマ、タヌキ、キツネ、樹上のリス等と出会っている。

小網代の森では、外来種のアライグマ、ハクビシン、タイワンリス、国内産のタヌキ、ウサギ、イタチ等と出会っている。有毒のマムシは、遊歩道が未整備の時に原中で幾度か出会っている。最近目立つのは鳴き声が高く長い中国産のガビチョウで、遠く東シナ海を渡って来る。中国では、縦長の籠に入れて公園の樹木へ吊るし鳴き声を楽しんでいる人達を見ている。

丹沢山地最高峰の蛭ガ岳1673メートル頂上で、食事中にシカ3頭と出会っている。当時は頂上にまだ山小屋が無かった。生活環境にうまく適応能力があり、今では高地から平地の田畑周辺まで出没してその数を増やしている。畑作物や樹木を食い荒らすので、農家の人や林業の人達に嫌われている。

シカの体の色は、夏毛と冬毛とでは大きく変わっていく。夏毛は、明るい茶色に白の鹿の子模様が目立つ。冬毛のオスは黒褐色、メスは灰褐色。季節の樹木に馴染んだ色合いとなる。

体の大きさは、オスの方が大きく体重差で1.5倍の差がある。平均値でオス60キロ、メス40キロ。北海道地方に生息する国内最大級のエゾシカはオス130キロ、メス80キロである。

一日の生活は、昼夜通して数時間の採食と休息を繰り返し、決まった^{ねぐら}場所はなく適当な所で座り込み休息。泥のあるヌタバでは、体を擦り付けて虫等を払っている。

春3月、オスシカに生えた角が両方共に落角する。同時に落角することが無いので1本角のみのシカを見ることがある。

秋が交尾期で、山を歩いている時に「カヨー」と物寂しく鳴くシカの声を聞いている。

7ヶ月間の妊娠期間を経て、例年通り5、6月頃に出産する。子供の数は1頭。

神奈川県では、生息するシカによってどんな問題が起きているのでしょうかと訴えている。自然植物への影響や農作物の被害が発生しています。シカが山岳地で数が増え高密度化したことにより、林床植物の衰退、土壌流出、農作物への被害など、自然環境や人間社会に様々な影響を与えているとしている。

数が増えたことにより、シカ自身への大きな影響も危惧されている。

昔は、平地や低山周辺に住み暮らしていたものが、今では高山域の丹沢山域全体にまでに生息域を大きく広げてきている。

食餌として山の貴重な自然植物を食い荒らしている。

早朝からのオショロ流し見学後、今日はまだ時間がたっぷり。森に出かけない手はない、と AM さんに車で引橋まで送っていただき、YMさんと二人のんびり森を歩いてきました。

一步森に足を踏み入ると、強烈なクサギの香り。どこを向いてもクサギ、クサギ、クサギ。これほどまで増えていたとは。足元にもクサギの花がたくさん落ちています。目黒の自然教育園で教えてもらったのですが、雄の時期(雄性期)と雌の時期(雌性期)があり、同じ株どうしで受粉することを避けているそうです(雄の時期は雌しべが上がり、雌しべが下がる。雌の時期は雌しべが上がり、雄しべが下がる)。これはどっちだろう、と覗きながら香りを楽しみました。

いつもの切り株もだいぶ朽ちてきましたが、シロウツボホコリを確認。ミズタマソウ、キンミズヒキ、ヌスビトハギ、シロバナサクラタデ、そろそろ夏の花たちもおしまいですね。

ハンノキ平でひらひらと飛ぶハグロトンボ。独特の舞いにしばし目が釘付け。2頭いましたので、雌雄だといいな。

豪雨による法面崩落で、ホテル交流会の翌日(6/5)から閉鎖されていた眺望テラス～宮ノ前峠は、すっかり復旧されていました(7/10から開放)。迅速な工事に感謝しながら通り抜け、ペルルカフェの冷たいソフトクリームで一息ついて帰りました。

記・写真: HM



クサギの花



シロウツボホコリ(変形菌)



ハグロトンボ



ニガカシュウ

三戸のオショロ流しを観た後、こあじろの森を HNさんと歩く。夏のこあじろは緑に溢れていました。

時折トンボや蝶が川辺に現れ飛び去って行きます。

ツル性の草を至る所で見かけます、HNさんと首を傾げながら、なんて名前の草かな?と話しながら、宮ノ前峠入口へ。ここは蜚観察前日に大雨が降って、柵が壊れていた場所です。柵に継ぎ接ぎされて修理されていました。

後日ツル性の草の名前を調べたら、ニガカシュウと言うそうです。秋に花が咲くそうです。蔓にムカゴが付くそうですが、食用には適さないそうです。沢山あったから食べれたら良いのにと感じてしまいました!

記・写真: Y.M



修理済みの柵



スタッフ研修 「アカテガニ 観察スポット探し」

2023年8月3日(木)

参加7名



今日は、チョーっ久しぶりにアカテガニの放仔を観察に行きます。この春、海岸歩きを続けるうちに一番の穴場と思われる場所を発見したのです。「きっと出るよね。」「数も少なくないはず。」そんな期待を胸に、今年こそはアカテガニと会おうと張り切っているのです。電車の中でたっぷりお昼寝して、三浦海岸駅で16:00集合。ここからはバスで現地へ向かいます。

海岸で軽食をすませ、いよいよ海に入りましたが、沖縄付近で停滞している台風の影響でしょうか。浜に打ち寄せる波が異常に荒く、水の中に立っている私たちの顔にも、容赦なく波しぶきが吹き付けて目に沁みます。近くにアマモ場があるのでしょいか、漂着物の中にはアマモと思われる緑の草が混じっています。

小さいけれど密なアシの茂みからチョロチョロと小さなカニが姿を現しました。アカテガニです。次々と数少ない数のカニが現れますが、波が怖いのでしょうか。ほとんどのカニが茂みの中へ引き返していきます。

波打ち際に流れ着いたアマモ混じりの砂が、土手のようになっているので、そこにつかまって仔を放そうという作戦でしょうか。中に数匹、勇気を出して突進してきますが、打ち寄せる波に数10センチも飛ばされ戻されていきました。そんな中でようやく一匹がプルプル体を震わせて放仔に成功。良かったネ、ため息ひと息、観察は続きます。

Mさんのご厚意で用意していただいた椅子をどけて見ると、わあ〜！カニ カニ カニ！大勢のカニたちが、待機していました。身を隠すのに格好の暗がりになっていたようです。悪い 悪い 邪魔してごめんなさい。

暗くなってくると、あら！出てくるわ、出てくるわ！あちらで放仔と思えば、こちらでも、はてはスタッフの足の上でもプルプルと大変な出産ラッシュならぬ放仔ラッシュ！カニが仔を放すたびに上がる、“あ〜！ヤッター ヤッター！”の歓声もいつしか静まり、波の音だけが聞こえています。誰もかれもが声を立てることも、身動きすることさえも忘れてひたすらに見入っていました。



夏なのに寒さを感じて、陸に上がろうと思う人たちも、上がってる場合じゃない。自分の身体が冷えるのも忘れて見入っています。いえいえ危険ですから上がってください。そんな方の足元を見ればサンダルやマリンシューズ。放仔の観察には、やっぱり長靴が良いみたいです。意外なところでは防水仕様の地下足袋という方がありました。これは良さそうですね、冷えないのはもちろん、長靴より格段に歩きやすい。

そろそろ上がりましょうと帰り道に目を向けると、なんと目の前いっぱいカニ カニ カニ！とんだアカテガニロードになっていました。帰りたけれど、足の踏み場も無いありさま……スゴイ場所を見つけたかも知れません。海岸歩きチームの皆さま、「心からありがとうございます」です。

早速来年は皆さんをお誘いしてと、一同勇み立ったのですが、それには解決しなければならない問題がいくつもあるようです。なにしろ、放仔のピークと共にバスは去り、それ以降はバスがありません。劔崎まで行けば三浦海岸行があるのですが、真っ暗な夜に歩ける距離ではなさそうな。ならば車でも思ったあなた、車は停める場所が必要ということをお忘れなく。それから浜のゴミ、お誘いする前にお掃除しないとです。

それでも、カニパトでつちかったノウハウで問題を解決し、皆さんと夏の夜の命の輝きをご一緒したいと思います。

記：橋みちよ 写真：浪本晴美

スタッフ研修 三戸浜の「オショロ流し」

◆紙上実況報告 三戸お盆の霊送りの行事 お精霊船 つくった 飾った おくった

もう三十年以上も前になるが三戸の光照寺に泊まって8月16日、早朝から始まる盆送りの地域の行事見学に参加したことがある。早朝、地域の子供たちがお墓に飾ってあるお供物をオショロ船に載せるために集めて回るのだ。その姿を見るために泊まりがけが必要だったのかと思う。今では全体に簡略化され、三つの部落で三隻つくった船は一つにまとめられたようだ。

会のスタッフ有志が見学というのに誘われ、朝の六時に三戸浜についたので、写真と一言で報告としたい。

浜では既に船の竹が船の骨組みかのように置かれていて大人の男性が短い縄を手に誰が指図するともなく穏やかに船のかたちが縄で組まれていっていた。静かに粛々と。みんなどうすればよいのか分ってやっている。



6 : 34

おはようございます。オショロ船の準備が始まっています。



7 : 17

竹の骨組みに、稲わらをくくりつけて、オショロ船ができあがりました。



7 : 19

持ち寄ったお盆飾りで、船を飾り始めました。



7 : 49

気が付けば、和尚様達が正装でみえていました。



7 : 53

オショロ船の引手（セイトッコ）が並びました。



7 : 58
セイトッコが板を持っています。



8 : 01
読経が始まりました。



8 : 04
御詠歌の歌詞を持って、地域の人達が集まっています。



8 : 06
動き始めました



8 : 16
西方浄土へおかえりです



8 : 29
ユンボで陸へ引いてきて
ゴミ処理だそうです

誰かが音頭をとって粛々とすすめるのではなく、なんとなくこうするんだという合意の元に動いていると思いました。行事の流れがすでに寄り合いなどで話し合われ、仕事や手順がもう手配され、あとは例年通り動いていく。静かに静かに。音頭をとる人がいなくても、静かに霊を送るみんなの気持ちでものが動き、進んでいく。そこに流れている意志の強さを思います。

記・写真 宮本美織

スタッフ研修 第6回海岸歩き「城ヶ島 その1」

2023年6月18日（日）

晴れ

参加者4名

前回まで三浦海岸発三崎東岡行の京急バスを使って、雨崎から通り矢までの岩礁海岸を歩いてきた（宮川湾から通り矢までは下見のみ）。

いよいよ城ヶ島に上陸する。今回の集合は、城ヶ島行きバスの始発駅、三崎口駅となる。乗車予定の城ヶ島行きには乗らず、一本前の「通り矢行」のバスに乗り、晴海町で下車。城ヶ島大橋の橋脚を登り、橋の上にとどり着く（写真-① ②）。



橋を渡りながら、たどって来た岩礁海岸を眺めるのに、海面高 21mの橋の高さはちょうどいい具合。城ヶ島に渡ってすぐ右側の、見通しのきかない雑木林のなかの小道に入って行くと、そこにはポツンポツンと畑が点在していて、山奥のよう（写真-③）。ひとつひとつの畑が不定形で、畑に沿った小道の向きがわからなくなり、ちょっとした冒険の気分。東西に延びる島の西端をめざし、自分の方向感覚を試すように進んでみる。私は地下街に入ると、全くの方向音痴になってしまう頼りなさなのだが、みんなで ああだこうだと相談しながら小道を進む。間違えずに林を抜け、正しく目的地にとどり着いたのはさすが、つわもの揃いである。



今日は島の西端から南岸を巡り、東西のまん中辺りにある「馬の背洞門」まで進む予定。まずは城ヶ島灯台に上ってみる（写真-④）。相模湾を一望し、伊豆半島や、富士山もうっすらと見える。島の西側からぐるっと南側まで、見渡す限り白黒の岩が層になって、横になったり立ち上がったたりして岩礁海岸が続いている。灯台は、絶好の観光の目玉なのに、木造りの歩道や柵が壊れたままで、道も通り抜けができなくなったまま放置されているのが痛ましい。敷地内のベンチで少し早めの昼食をとる。

城ヶ島といえば、なんといっても地層観察のメッカ。今回は、日本地質学会編集発行の、「地質リーフレットたんけんシリーズ 城ヶ島たんけんマップ — 深海から生まれた城ヶ島—」を参考資料として、少しずつ勉強しながら進むことにした。

まずは西端の、灘ヶ崎のつけ根にある小山、「^{みじ}楯の三郎山」。平安初期、九州から三浦の地に漂着し、海南神社の祭神となった藤原 ^{すけみつ}資盈の家来で、船の舵取りであった三郎が、南西方向の守りを固める神社である。百年前の関東大震災までは島だったそう。山腹にはいくつも特徴的な窪みがあるが、なんと風によって小石がぐるぐる回り、柔らかい岩を削ってできたものだという（写真-⑤ ⑥）。

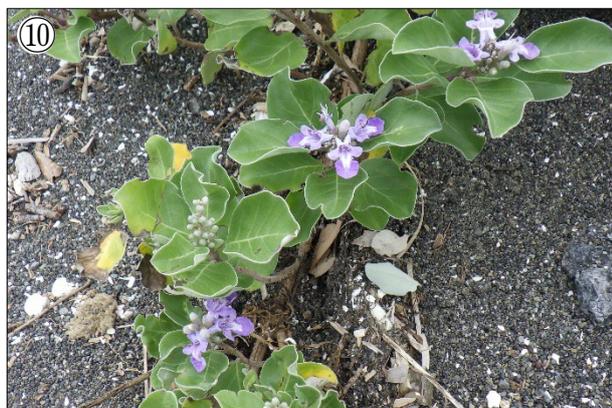




灘ヶ崎は、火山の礫や砂の堆積した黒っぽいスコリアと、火山灰が堆積した白い凝灰岩とが幾重にも重なってできた層が隆起し、さらに波で削られてできた、洗濯板のように凸凹した海蝕台だが、南に進んで「観光橋」の辺りに来ると、地層の間に挟まれた一部のスコリアが、踊るようにうねっているスランプ構造が、そこここに見られる（写真－⑦）。また南下するほど地層の傾きが大きくなって立ちあがったり、さらに南に回り込むと、地層は東へ沈み込むように方向を変え、長津呂^{ながとろ}湾となる。

こうして次々と変化していく地層を追いかけるだけでも飽きないが、きわめつけは「火炎構造」だろう（写真－

⑧）。白さが際立つレース飾りのような、白い炎のような繊細な地層が現れる。この火炎構造はとても貴重で、地学の本の表紙にも採用されている。みんなは座り込んでじっくりと観察。同じところにピンク色の凝灰岩層の広がりがあったり、その中に生痕化石らしきものも見られた。典型的な逆断層（写真－⑨）も見つけることができ、資料で確認しながらワクワクする。



ハマゴウ



イソカラタチゴケ

途中、海岸性の植物や、地衣類、水溜りのオタマジャクシなどを観察しながら東へ向かう（写真－⑩ ⑪）。



ずうっと三崎層の岩礁海岸が続いていたが、馬の背洞門の手前 300m 程の地点から、僅かながら砂浜が始まる。この辺りには島を南北に分断して三浦海岸にまで至る大きな断層があり、島南部の地層は、三崎層から初声層に変わる。ちょうど境目の弱くなったところに海蝕洞窟がある（写真-⑫）。10 日程前の下見では無かったのに今日来てみれば、洞窟の手前に簡単な柵ができていて、近づけなくなっている。転がっている石が増えているような気がする。ドキッ！最近崩れたのだろうか？

馬の背洞門には観光客が何組かいて賑やかだ。私たちも、4 人の集合写真を撮っても

らう（写真-⑬）。平日の下見のおり、ウエディングドレスを着て裾をたくしあげた女性と、タキシードの男性が危なっかしい足取りで上から降りてくるのに遭遇してビックリしたが、結婚写真の前撮りなのだろう。城ヶ島は、特に馬の背洞門は、デートのメッカなのだ。洞門わきのその階段を上り、赤羽海岸と太平洋の絶景を楽しんで、島を北上し、白秋碑前バス停から帰途についた。



↑通りがかりの方に撮影していただく



Google マップ上に木皿直規さん開発のスマホアプリ『位置ロガー』で記録した GPS 情報をマッピングし、ルートを示しました。

記：松原あかね 写真：浪本晴美

◆2023年6月18日 海岸歩き 感想

晴れわたった素晴らしい日だった。

急階段の上の城ヶ島大橋を歩いて渡る。風がさわやかに吹き抜ける。海岸歩きでこれまで歩いてきた海岸線が左にみえ、海の上を歩くきもちのよさ。城ヶ島についた。山側の小さな階段をのぼって、森の中へ入る、城ヶ島の背骨をあるいて反対側の灯台へ向かうのだ。どの道を選ぶかはお楽しみ。

細い道をくねくねと小さな畑の横をとおり、分かれ道では首をひねり、たのしく灯台へ到着。

灯台をおりてからの城ヶ島の岩礁のおもしろさはほんとうにすごかった。

地層が幾重にもかさなって横になっている。岩礁はこの数千年に幾度も隆起し、変化を重ねてきたことがわかる。岩のミルフィーユ、いや鬼の洗濯板？ 不思議な波模様がうきあがった地層までが、そこにも、ここにも、つぎつぎとでてくる。

100 年前の大地震（関東大震災）で、ここが、その前の大地震で、ここが、と大地の動きがわかるのだ。つぎの大地震のときはどんな地層になるんだろう！と、100 年後か今すぐか、大地震を期待するなどしてはいけないのだが、これから起こる大地震のあと、どんなふうになっているか、できたら見たいと思った。

もしかすると城ヶ島は心おどる冒険の島かもしれない。

こんなプランをたててくれたMさん、ありがとう！

鈴木カヲル

◆◆スタッフの活動

2023.07.30 (日) 通信第 37 号印刷
2023.08.03 (木) アカテガニ遠足下見
2023.08.04 (金) 赤星直忠博士文化財資料館講演記録編集会議 (リモート)
2023.08.12 (土) 赤星直忠博士文化財資料館講演記録編集会議 (リモート)
2023.08.25 (金) 赤星直忠博士文化財資料館講演記録打合せ (資料館)
2023.08.27 (日) 第 8 回こあじろの森くらぶ総会 (於 潮風スポーツ公園管理棟)
2023.09.02 (土) スタッフ会議 (リモート)
光の丘水辺公園友の会に賛助会員として加入
2023.09.09 (土) 第 37 回交流会 こあじろ考古学講座 (須田英一先生)
(於潮風スポーツ公園管理棟)
2023.09.10 (日) スタッフ会議 (リモート)
2023.09.16 (土) スタッフ会議 (リモート)
2023.09.18 (月・祝) スタッフ研修 変形菌探し (光の丘水辺公園)
2023.09.23 (土) 第 39 回交流会下見
2023.09.30 (土) スタッフ研修 第 7 回海岸歩き「城ヶ島 その 2」

◆◆ご寄付ありがとうございます

加藤紀子様 川上晴美様 倉内大輝様 倉内ちひろ様 土屋圭子様 浪本晴美様
橋みち子様 藤崎洋子様 三本保子様 (五十音順)

以上の皆さまにご寄付をいただきました。大切に使用させていただきます。

◆◆スタッフ研修「変形菌探し 2023@光の丘水辺公園」

光の丘水辺公園へ、変形菌を学びにいきましょう。スタッフ研修ですが、興味をお持ちの方はご参加が可能ですので、ご連絡ください。

日時 : 2023 年 10 月 19 日 (木) 雨天の場合は 10/23 (月) に延期
2023 年 11 月 23 日 (木・祝)
集合 : 10:00 光の丘水辺公園管理事務所前集合
(YRP 野比駅からバスを利用する場合は 9:48 発 9:52 光の丘 5 番下車)
持ち物 : 長靴、虫眼鏡、お弁当、飲み物

連絡先 : メール info@mori-club.com (高橋) 電話 046-889-0067 (仲澤)

* 予定は中止または変更になる場合がありますので、ご参加を希望される場合は必ずご連絡をお願いします

◆◆第 38 回交流会のお知らせ

2024 こあじろの森くらぶオリジナルカレンダー 掲載画像選考会

会員の皆さまに画像の提供をお願いしました、2024 年用こあじろの森くらぶオリジナルカレンダーの画像選考会をリモートで行います。パソコン・スマートフォンの操作に不慣れな方もどうぞお気軽にご参加ください。なお、応募の締め切りは 9 月 30 日とさせていただきます。

日時 : 2023 年 10 月 22 日 (日) 13:00~14:00
ご参加方法 : こあじろの森くらぶホームページの会員専用ページから「カレンダー画像選考会」のボタンをクリックしてご参加ください。

◆◆スタッフ研修 第 8 回海岸歩き「三崎横断、西海岸へ」

良く知っているようで、新しい発見に満ち溢れた、三浦半島の海岸線。ちょっとハードな道もありますので、十分注意して歩きたいと思います。興味をお持ちの方はご参加が可能ですので、下記連絡先までご連絡ください。

日時 : 2023 年 11 月 25 日 (土) 雨天の場合は 12 月 9 日 (土) へ延期
集合 : 10:00 三崎口駅前

* ご連絡いただいた方には、別途詳細をお知らせします

連絡先 : 担当・松原
メール post@mori-club.com 電話 090-6016-0513 (松原)

◆◆第 39 回交流会「こあじろ遺跡探訪会」のお知らせ

第 37 回交流会（9 月 9 日）で、こあじろ考古学講座「小網代地域の遺跡とその周辺—三浦半島の考古学研究の歴史から—」と題して、須田英一先生にレクチャーをしていただきました。今回は小網代湾周辺の遺跡を実際に歩いて巡ります。遺跡発掘調査や報告に携わられた須田先生から、現地で解説を伺うことのできる大変貴重な機会です。ご家族・ご友人をお誘いの上、ぜひご参加ください。

- 日 時：2023 年 11 月 19 日（日）10：00～15：30
（雨天の場合は 11 月 26 日（日）に延期 当日 7：00 に HP に掲載）
- 集 合：10：00 三崎口駅前
- 行 程：今回は小網代湾の南側の遺跡と、赤坂遺跡を巡ります。路線バスを利用して移動いたします。バス料金は各自ご負担ください。
- 解 散：15：00 頃 三崎口駅前
- 持 ち 物：昼食、飲み物
- 講 師：須田英一先生
- 参加資格：会員とご家族、ご友人



こあじろの森くらぶ
ホームページ

須田英一先生プロフィール：

現在、法政大学現代福祉学部・東海大学文学部・中央大学文学部・昭和女子大学人間文化学部で兼任講師を、三浦市文化財保護委員会委員・葉山町文化財保護委員会委員・町田市文化財審議委員会で委員を務められています。主に文化政策（文化財政策、埋蔵文化財、文化遺産学、史跡の保存・活用と地域社会との関わり）と考古学（先史考古学、縄文時代の生業）を研究していらっしゃいます。また、1994～2011 年、三浦市教育委員会に学芸員として勤務され、実際に数々の遺跡を調査し報告をまとめられています。

◆◆第 40 回交流会「三戸の遺跡めぐり」のお知らせ

第 39 回交流会（遺跡探訪会）の勢いをそのままに、小網代湾の北側（三戸方面）の遺跡を、自主的に探索する交流会です。

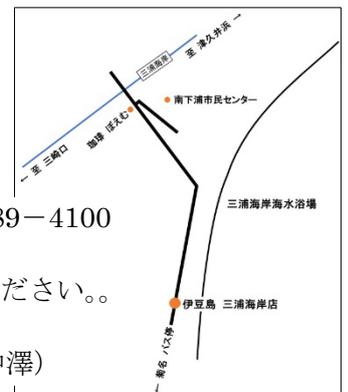
- 日 時：2023 年 12 月 2 日（土）10：00～15：00（雨天中止）
- 集 合：10：00 三崎口駅前
- 解 散：15：00 頃 三崎口駅前
- 持 ち 物：昼食、飲み物
- 参加資格：会員とご家族、ご友人

◆◆縁の会のお誘い

第 40 回交流会の後ご希望の方は、恒例の縁の会へ。縁の会のみご参加の方は 17:00 現地集合。（三浦海岸駅から三崎行または三崎港行のバスがあります。

琴音バス停車。徒歩でも 15 分ほどです）

- 日時：2023 年 12 月 2 日（土）17：00～19：00
- 会場：三浦海岸 伊豆島（三浦海岸駅から徒歩 15 分 日本料理）TEL:046-889-4100
- 会費 5,500 円（税込）飲み物は別途各自負担
- 参加ご希望の方は 11 月末までにスタッフ、または下記の連絡先にお申込みください。
- 縁の会のみのご参加も歓迎です。
- ご連絡先：メール info@mori-club.com（高橋） 電 話 046-889-0067（仲澤）



こあじろの森くらぶ通信 No.38

2023年10月01日発行

こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地：〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田1528-75

連絡先：info@mori-club.com（高橋）
046-889-0067（仲澤）

URL：<http://www.mori-club.com>

年会費：1000 円（7 月～6 月 入会金不要）

郵便振替 こあじろの森くらぶ 00290-6-137203